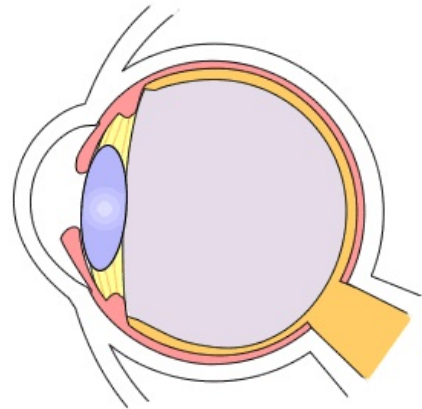


ものが歪んで見える（変視症）、色の区別がつきにくい（色覚異常）、中心が暗い・欠ける（中心暗点）、はっきり見えない（視力低下）などの症状が出たら加齢黄斑変性を疑い眼科を受診しましょう。網膜の中でも映像を認識するのに最も重要な部分である黄斑が、加齢にともない障害されることにより発症します。

アメリカでは中途失明原因の第1位、日本では緑内障、糖尿病網膜症、網膜色素変性症について第4位（厚労省研究班 2007）の病気で年々増加しています。iPS細胞の実用化に世界で初めて適用された疾患としても注目されています。



主な薬物治療は抗 VEGF（血管内皮増殖因子）療法で注射により脈絡膜新生血管の成長を抑えます。この治療薬は、市場規模でも眼科領域の売上高（平成 15 年）でアイリーア 399 億円、ルセンチス 276 億円と 1, 2 位を独占しています。今後は、抗 VEGF 薬で治りきらなかった場合の選択肢として iPS 細胞を使った治療が期待されます。日常生活での予防としては喫煙を控える、サングラスで太陽光特に青色光を防ぐ、緑黄色野菜などバランスの良い食事を摂るなどに心がけるとよいでしょう。